

特別決議

小川榮太郎『徹底検証 森友・加計事件』による、連帯ユニオン議員ネットおよび副代表・木村真豊中市議についての悪意に満ちたデマ記述に抗議する

自称「文芸評論家」の小川榮太郎なる人物が、『徹底検証「森友・加計事件」朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪』という本を書き、飛鳥新社が発刊しました（2017年10月22日第1刷）。この本は、事実誤認や歪曲どころか、ねつ造・虚偽、さらには全くの「作文」としか考えられない、事実とかけ離れた記述に満ちた代物です。「いくつかの事実誤認が含まれる」という程度であるならば、単なるミスであることもあり得ますが、これほどまでに多数の事実とかけ離れた記述は、小川がもともと悪意をもって、朝日新聞をはじめとする関係者を誹謗・中傷する意図のもとで書いたものであると判断せざるを得ません。

私たち連帯ユニオン議員ネットや副代表の木村真豊中市議についても、「木村真市議は普通の意味での議会人とは到底言えない」（「連帯議員ネットは）穏健な議員団体ではない」「そもそも関西生コン支部は過激な極左活動団体」「木村もこのような人脈図中の団体副代表なのである」などと、まさしく言いたい放題の暴言を連発しています。「朝日新聞は、こんな風に方々で破壊的な極左団体人脈と記者が昵懇となり、客観記事を装って彼らのメッセージをあれこれ発信しているのであろうか」と、ねつ造にねつ造を重ねて、「朝日新聞と極左活動家が共謀してでっち上げ記事をつくった」かのような作文を書き連ねているのです。

インターネットニュースサイト「LITERA」によると、この小川の本を自民党が大量に買い込み、支持者に配布しているらしい、とのこと。詳細については確かめようありませんが、短期間で版を重ねている事実（2017年10月22日第1刷、12月18日に第8刷）から推察すると、十分あり得ることでしょう。

このような事実とかけ離れた創作が、「徹底検証」という言葉が付されたタイトルで出版されたことについて、著者の小川榮太郎はもちろん、出版元の飛鳥新社も非難は免れません。

私たちは、「連帯議員ネット」および副代表の木村真豊中市議に対する誹謗中傷のデマ宣伝に、強い抗議の意を表明するものです。

以上、決議します。

2018年2月9日

連帯ユニオン議員ネット総会 参加者一同

